

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和7年 3月 1日

事業所名 キッズスタジオ オリーブの木

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		学習に集中できるよう、机の位置やパーテーション等工夫して取り組みやすい環境を整えている。	事業所に到着する時間は、児童によって下校時間や場所の関係により異なる。学習課題が終わり、おやつを食べた後、グループ支援までの時間は外遊びの時間を設けている。課題を終えた児童さんが発散できる場と静かに集中できる学習時間を確保できるようにしている。
	2	職員の配置数は適切である	○		基準の職員を配置し、それに加えて外部講師を配置している。	基準の職員以外に送迎スタッフも増やし、待機スタッフを充実させる。活動内容によっては人員を増やしていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	階段もなく安心安全に過ごせる環境になっています。手すりを必要とする児童は現在いません。	ドアの開け閉めは、基本スタッフがやっている。トイレ以外はバリアフリー。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		ケース会議やミーティングを行い業務改善を行っています。振り返りを行い、改善策を考え実行し検討する場も作っています。毎日のスタッフ会議で確認している。	定期的にミーティングを行い、全員参加できるように日程調整を行っていく。出席できなかった職員には、議事録、又はLINEなどで会議で決まったことを共有するようにしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートに書かれた要望や意向を把握し、反映した活動になるよう計画し実行しています。	保護者に対しての発信をより積極的に増やしていけるように、ホームページ更新のお知らせ、SNSなど活用して発信していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPと事業所に提示している。	公開した際には、保護者に通知する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		アドバイザーの評価結果を業務改善につなげている。	分子栄養学を取り入れた活動を行っています。（クッキング、日々のおやつ等）専門の医師をお招きし、保護者対象のセミナーを行っている。多くの方に参加頂けるように、引き続き発信していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修があればスタッフに周知している。研修に参加された際は報告会も行っている。外部の講師による研修を行っている。	自立支援協議会の子ども部会、定例会に参加し、横とのつながりを意識し、学び得たことを実践できるようにしていく。事業所内研修を増やす。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どものニーズを聞き取り、相談専門員が作成するサービス利用計画書を把握し、検討会議を行い本人主体の支援計画書を作成している。日々の様子、変化を細かく観察している。	引き続き、本人主体の個別支援計画、保護者の願いや希望、内容のある個別支援計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		研修で教えてもらったツールやリタリコの資料を活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		子ども達の様子を見ながら職員でミーティングを行い立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者の成長につながるように段階に応じて活動プログラムを組んでいる。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		個人の目標、一日の目標を設定し、積み重ねを大切にした支援内容にしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの特性を把握し、集団活動に参加が難しい子どもは個別活動で対応し、自信をつけて徐々に集団活動に参加できるように計画を作成し実施している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日のスタッフ会議でその日に行う支援内容や役割分担を確認している。支援時間から来られる職員にはLINEツールを活用して伝達している。	引き続き、現在の方法で全スタッフと情報共有していく。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		残っているスタッフで振り返り、報告会を行い次に生かせるように改善策を考えている。	送迎などで就業時間が遅くなると振り返りが出来ないこともある為、LINEや掲示板を活用して支援の振り返りや気付いた点等を共有していく。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録を確認し合い、検討会議の時に活用して改善につなげている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	18 定期的モニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判 断している	○		更新の一月前までにはモニタリングを行い、本人主 体の計画になっているか目標や支援方法を確認して作 成している。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組 み合わせて支援を行っている	○		自立支援、日常生活の充実の為の活動、創作活動、余暇の提 供は組み合わせて支援を行っている。 日々の取り組みの成果を發揮する場と地域交流の機会として 盲導犬チャリティーコンサート、広地区合唱祭、レガール ミュージックフェスティバルに参加した。	可能な限り行い、地域交流の機会を作っていく。
関係機 関や保 護者 との 連 携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	○		利用者によく関わりがあり、把握している支援員、管 理者、児発管が出席するようにしている。	積極的に出席していく。
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認 等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブ ル発生時の連絡）を適切に行っている	○		相談専門員や保護者から学校での様子や行事予定を教 えてもらっている。またケース会議で情報共有をして いる。 送迎時の対応等はマニュアルを伝え、フローチャート を作成して実行している。	送迎の漏れ、遅れが発生したことがある。漏れることがな いように送迎スタッフと連絡を取り合う。到着が予定より も10分以上遅れる場合は、学校、保護者に必ず連絡をす る。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる 場合は、子どもの主治医等と連絡体制を 整えている		○	医療的ケアが必要な児童の受け入れはしていない。	今後も予定はありません。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等と の間で情報共有と相互理解に努めている		○		今後取り組む。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事 業所から障害福祉サービス事業所等へ移 行する場合、それまでの支援内容等の情 報を提供する等している		○	まだそういった利用者がいないがこれから学年が上 がるにつれて支援内容の情報を提供できるように資料作 りしておく。	まだそういった利用者がいないが、これから学年が上がる につれて支援内容の情報を提供できるように資料作りをし ておく。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や 研修を受けている	○		専門機関と連携し、助言を頂いている。	専門家による研修を計画して支援に生かせるようにする。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、 障がいのない子どもと活動する機会があ る	○		子ども食堂の参加や、障がいのない子どもも出演されるレ ガールミュージックフェスティバルに参加できる機会を作 り、交流することができている。公園や公共施設で交流する 機会がある。	地域交流の活動を可能な限り継続して行っている。 老人ホーム、介護施設等で慰問コンサートも行う予定。 幅広く地域の方の交流が取れるようにする。
	27 自立支援協議会等へ積極的に参加してい る	○		可能な限り参加した。	引き続き、日程調整し参加していく。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について 共通理解を持っている	○		LINEを活用し活動報告と写真、動画を送っている。保 護者が来所された時や送迎時に活動内容を伝達し、状 況や課題について共通理解を持つよう努めている。	引き続き、連携を図っていく。
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニ ング等の支援を行っている	○		個別相談を受け付けており、希望がある時に行ってい る。		
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等に ついて丁寧な説明を行っている	○		入所する際、契約時に必ず説明している。	継続。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	○		関わりの深い職員が対応。 相談員の助言を基に支援を行っている。LINEを使って やりとりしている。	継続。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会 等を開催する等により、保護者同士の連 携を支援している	○		コンサートやワンデーダイニング等のイベントに招待 し、保護者間の連携を支援している。保護者向けの食 育セミナーを開催し、交流の場と困り感を解消する きっかけ作りができた。 回数は少ないが保護者懇談会は行っている。	継続。オリーブ通信を作成し、保護者懇談会のお知らせも 掲載していく。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対 応の体制を整備するとともに、子どもや 保護者に周知し、苦情があった場合に迅 速かつ適切に対応している	○		電話で対応している。 訪問して対応することもある。	継続。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行 事予定、連絡体制等の情報を子どもや保 護者に対して発信している	○		オリーブレポートを送り、オリーブでの活動を共有で きるように動画編集して保護者へ動画を送っている。 また行事予定やセミナーの案内等発信している。	引き続き、LINEで発信している。 オリーブ通信を発信する予定。
	35 個人情報に十分注意している	○		活動報告として写真を送る際、許可なくSNSなどに載 せないように伝えている。	ホームページ、SNSに活動を紹介している。写真を使う時 は、モザイク加工したものを使用している。
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		発表会やイベントを開催し、地域住民にご参加頂いた。	引き続き、ワンデーダイニング、音楽発表会などのイベントを行う。新たに子どもの作品の展覧会なども予定していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員には周知している。 状況に応じてLINEで伝達することもある。	取り組んだことをより分かりやすく伝えるように、見える化にしていく。保護者にも伝えるようにホームページに掲載していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		事前に避難訓練（方法）を子どもに伝える。行った内容を保護者に伝えている。同じ訓練を1週間続けて少なくとも1回は訓練に参加できるよう配慮する。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		ワークシートを作成し、グループワークを行い適切な対応へ繋げている。研修にも参加している。	引き続き、研修を行い、日々の支援、関わりを見直していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		契約時に説明している。 帰りの送迎する前に痙攣を起し、送迎車に中々乗れない場面があった。以下の事例を今後どうするのかスタッフ間で話し合い、そういった時は児童を職員が抱きかかえて車内に誘導している。難しい場合は、保護者に連絡を取り迎えに来ていただく等連携を図っている。決まったことを保護者、新規契約者に伝えている。	再度、保護者へ通知するようになっていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者としっかり確認をしたうえで、クッキング活動を行っている。またおやつも気を付けて提供している。児童のアレルギーリストを作成し、全職員が把握できるように職員用掲示板に提示している。	データを更新し、支援に携わる職員に周知できるように掲示していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		口頭では職員に周知している。	アドバイザーから指示をもらいながら事例集を作成していく。